

「十二支考」
南方熊楠

第13回 南方熊楠ゼミナール

■日 時：令和3年11月20日(土)
13:30~16:00

■会 場：京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

■参加費：無 料 定員230名(対象:高校生以上)
※会場他に緊急事態宣言下等の場合、オンライン
開催(Zoom 講演の様子を YouTube 公開)

※申込方法：南方熊楠ゼミナール実行委員会まで
電話(0739-26-9909)でお申込みください。

※申込期間：令和3年10月27日(水)9時~11月17日(水)17時
(定員になり次第締め切ります。)

主催：南方熊楠ゼミナール実行委員会
(公財)南方熊楠記念館 <http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp>
南方熊楠顕彰会 <https://www.minakata.org>
京都大学人文科学研究所
後援：和歌山県・田辺市・白浜町

●基調講演

「南方熊楠「十二支考」と柳田国男「山人論」
— 百科事典『淵鑑類函』をてがかりに」

講師：金 文京氏(京都大学名誉教授)

●パネルディスカッション

「南方熊楠の情報源 — 「和漢洋三才図会」の世界」

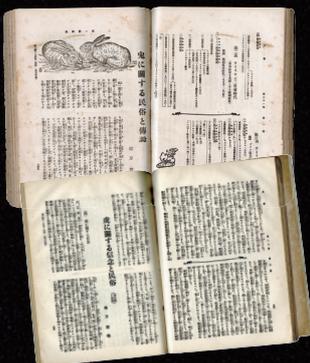
- パネリスト 金 文京(京都大学名誉教授)
- 小峯 和明(立教大学名誉教授)
- 菊地 暁(京都大学人文科学研究所助教)
- 田村 義也(成城大学非常勤講師)

●コーディネーター・司会 松居 竜五(龍谷大学国際学部教授)

※ご来場の際は、マスクの着用や検温、手指のアルコール消毒等、
会場内の感染予防対策にご協力ください。



▶ 猿に関する民俗と伝説(一) 草稿



▲ 虎に関する信念と民俗



▲ 雑誌『太陽』

▶ 虎に関する民俗と伝説

第13回 南方熊楠ゼミナール

Minakata Kumagusu seminar

南方熊楠は、明治、大正、昭和初期という時代の中で実に幅広い業績を数多く残し、民俗学や比較説話学等の分野における近代日本の先駆者的存在であると同時に植物学、特に「隠花植物」と呼ばれていた菌類・変形菌類・藻類等の近代日本における初期の代表的な研究者です。

熊楠の頭脳ともいべき田辺市中屋敷町の旧南方邸に残された資料は、隠花植物の標本約25,000点が国立科学博物館植物研究部に、その他の資料は南方熊楠記念館（公益財団法人、白浜町）と南方熊楠顕彰館（田辺市）に分かれて保存されています。この数十年の間に『南方熊楠記念館蔵品目録』（1998年）と『南方熊楠邸蔵書目録』（2004年）・『南方熊楠邸資料目録』（2005年）が相次いで編纂され、熊楠資料の全体像をうかがうことができるようになると、たくさんの新事実が明らかになり、最近まで半ば伝説的に語られてきた熊楠の生涯と業績に多くの修正が加えられました。また、2006年の南方熊楠顕彰館の開館に伴って研究者が資料にアクセスすることが容易になり、熊楠研究は飛躍的に発展しています。

南方熊楠ゼミナールでは、そうした資料調査の進展を踏まえて熊楠研究の最新の成果と熊楠の遺した業績や実像を広く発信するため、南方熊楠記念館と南方熊楠顕彰会との共催により、熊楠生誕130周年にあたる1997年に第1回を開催して以来、隔年で開催してまいりました。

今年度、熊楠没後80周年となる今回のゼミナールでは、中国古典文学の第一人者である金文京先生をお迎えして、「南方熊楠「十二支考」と柳田国男「山人論」—百科事典『淵鑑類函』をてがかりに」と題してご講演いただくとともに、パネルディスカッションでは様々な分野の研究者による討議により、熊楠の代表作とみなされる、大正期に雑誌『太陽』に連載された和漢洋の動物に関する膨大な知識を総動員して執筆された「十二支考」を幅広い観点から読み解きます。研究の最前線より描き出される、現在進行形の南方熊楠像をご期待ください。

●基調講演●

「南方熊楠「十二支考」と柳田国男「山人論」 — 百科事典『淵鑑類函』をてがかりに」

南方熊楠がその主著「十二支考」を執筆するために利用したさまざまな書物の中でも、中国清代の類書（一種の百科事典）『淵鑑類函（えんかんるいかん）』はもっとも重要なもののひとつです。熊楠はこの本を大英博物館の図書閲覧室で見て、さっそくロンドンの書店を通じて購入、生涯愛読し、柳田国男にも利用を勧めています。この講演では、熊楠が『淵鑑類函』をどのように用いたのかを具体的に検討したいと思います。一方、「十二支考」を執筆する三年前、熊楠は柳田と文通をはじめます。そのころ柳田は山人に大きな関心をもっていました。のちに熊楠にその山人についての考えを批判され、山人から常民研究に移行したとされています。両者の間にどのような見解の相違があったのでしょうか。

講演ではこの点について、『淵鑑類函』をひとつの手がかりとして推測してみたいと思います。詳しくは当日お話をいたします。どうぞご来聴ください。



【基調講演講師】

【パネリスト】

●金 文 京
(きん ぶんきょう)

京都大学名誉教授

専門は中国古典戯曲、小説。

1952年、東京生まれ。慶應義塾大学文学部中国文学科卒、京都大学大学院文学部研究科単位取得退学。京都大学文学部助手、慶應義塾大学文学部、同総合政策学部助教授、京都大学人文科学研究所教授、鶴見大学文学部日本文学教授などを歴任。

現在、京都大学名誉教授。

著書に『三国志演義の世界』、『三国志の世界』、『漢文と東アジア—訓読の文化圏』（角川財団学芸賞受賞）、『李白—漂泊の詩人—その夢と現実』など。

●パネルディスカッション● 「南方熊楠の情報源—「和漢洋三才図会」の世界」



【パネリスト】●小峯 和明
(こみね かずあき)

立教大学名誉教授、中国人民大学・
高端外国専門家
専門は日本中世文学、東アジアの比較説話文学。



【パネリスト】●菊地 暁
(きくち あきら)

京都大学人文科学研究所助教
専門は民俗学。



【パネリスト】●田村 義也
(たむら よしや)

成城大学非常勤講師
専攻は比較文学比較文化（特に近代日
本美術史・文化史）。



【コーディネーター・司会】

●松居 竜五
(まつい りゅうご)

龍谷大学国際学部教授
専門は比較文学、南方熊楠研究。



【会 場】 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

京都府京都市左京区吉田本町36

- バス「百万遍」より南へ徒歩約4分
- バス「京大正門前」より東へ徒歩約3分
- 京阪電車「出町柳」駅より東へ徒歩約15分